

## 防災教育を軸とした教科横断的な学習（国語）のまとめ

神岡小学校

### 1. 単元名

6年生国語（7時間）

「みんながよりよく過ごせるために」

らアドバイス（できること、できないことなど）をお願いした。

### 2 単元指導計画

| 時間 | 学習活動                              |
|----|-----------------------------------|
| 1  | ・災害についてインプット<br>・避難所生活について課題意識をもつ |
| 2  | ・議題を確かめる。<br>・目的と条件を明確にする。        |
| 3  | ・話し合いの仕方確かめる。<br>・自分の意見を明確にする。    |
| 4  | ・グループでの仮の結論を出す                    |
| 5  | ・防災士との意見交流会                       |
| 6  | ・再び話し合い、最終の結論を出す。                 |
| 7  | ・学年で交流、まとめ。                       |



### 5 意見交流会後の変化

防災士さんと意見交流会後に最終結論をグループで話し合った。一例を示す。

#### 交流会前

主張：いろんなものを運ぶのを手伝う

活動内容：水、食べ物、布団を運ぶ手伝い

#### 交流会後

主張：いろいろなものを配る、情報を集める。

#### 活動内容

- ・大人が運んできたものを配る。
- ・仲間を集めて、みんなで配る。
- ・配った後、笑顔でコミュニケーションをとる。
- ・話す中で聞いたことをリーダーに伝える。

交流会で「子どもたちでできること、子どもたちならできること、子どもたちしかできないこと」を教えていただき、活動内容に大きな変化が見られた。

### 3 議題、目的、条件

**議題**「避難所生活で、小6の自分たちにできることはなにか。」

**目的**「みんながより良く過ごせるために」

**条件**・9月に神岡で大雨が降り土砂崩れが起きた。  
・神岡小学校で避難している。  
・神岡の避難所では、400人くらいの人がある（高齢者や子供も）  
・大人は仕事などで忙しい。  
・お金がなく、新しいものは使えない。

### 4 防災士との意見交流会

子どもたちが出した仮の結論を、防災士の方に提案しアドバイスをいただく活動を通して、子どもたちの新たな気づきや本当にこれでよいのかなど、多面的に考えることを目的に、防災士（3名）と神岡災害支援隊（2名）と意見交流をする場を設けた。また、意見交流の際には、「子どもたちからの提案に対して、「それぞれの立場の視点」か

### 6 授業を終えて

できることは結構あるんだということが分かった。しっかり動けるようになりたい。

何かを手伝うだけではなく、人との関わりが大切だということが分かった。

子どもたちの感想からも、今回の授業を通して学びを多く得られたようだ。特に防災士との交流会では、専門的な意見や現場経験からのアドバイスがより効果的だった。